

2019/11/28 川崎市

「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」募集結果について

サポーター登録者が決定しました

川崎市では、英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプに向けて、2019(令和元)年7月1日から9月2日まで事前キャンプで活動するボランティア「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」を募集しました。

たいへん多くのご応募をいただき、選考の結果230名のサポーター登録者を決定いたしました。

登録手続きが完了したサポーターは、2020(令和2)年2月以降、座学・実地研修、英国オリンピック委員会及び英国パラリンピック委員会による英語での研修等を受講後、来年夏の事前キャンプ時に活動する予定です。

詳細については、以下のURLにある川崎市のホームページをご覧ください。
<http://www.city.kawasaki.jp/2020olypara/page/0000112623.html>



英国代表チーム
川崎キャンプサポーター

2020/01/24 横浜市

英国事前キャンプ横浜市ボランティア 「横浜ホストタウンサポーター」を募集しました!

横浜市は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおける英国代表チーム事前キャンプを円滑に実施するため、英国事前キャンプ横浜市ボランティア「横浜ホストタウンサポーター」を募集し、令和元年12月20日から令和2年1月21日の応募期間に、募集人数の100人程度を大きく上回る1,431人の皆様にご応募いただきました。英国代表チームにとってベストな準備環境を作れるよう、またサポーターの方々がいきいきと活躍いただけるよう、引き続き準備を進めていきます。



【今後のスケジュール(予定)】

2020年

- 1月末 応募者へ抽選結果を通知、個別オリエンテーション(説明会・面談等)案内通知
- 2月下旬 個別オリエンテーション実施
- 3月上旬 「横浜ホストタウンサポーター」決定通知
- 3月下旬 英国代表チームによる全体オリエンテーション実施
- 5～6月頃 役割別研修・リーダーシップ研修、ユニフォーム等受取
- 7月初旬 英国代表チームによる全体研修
- 7月 活動実施

2019/12/20 横浜市

「英国パラリンピック委員会選手団長講演会」が 桐蔭横浜大学で行われました

2019年12月4日(水)、桐蔭横浜大学において、英国パラリンピック委員会選手団長のペニー・ブリスコー氏とパフォーマンス責任者のトム・ポールソン博士が、桐蔭横浜大学でスポーツ科学について学ぶ学生などを対象に、「Towards Tokyo - 東京2020大会に向けて」をテーマに講演を行いました。

両氏は、パラスポーツの歴史や東京2020大会での注目選手の紹介を交えながら、東京2020大会に向けて、英国パラリンピックチームParalympicsGBが行ってきた取組について発表しました。

また、スポーツを通じて障害者のためのより良い社会づくりを目指すというビジョンのもと、2012年ロンドン大会が次世代の子どもたちにもたらした素晴らしい教育プログラムについても紹介しました。

最後に、2016年リオ大会の際に、英国大手テレビ局Channel 4によって作成された英国パラ選手たちを応援するPRビデオを鑑賞し、東京2020大会の成功を祈願して講演を締めくくりました。



2020/01/24 横浜市

英国コヴェントリー市の子どもたちが横浜を訪問！

2019年11月19日、英国コヴェントリー市からオリンピックスタディツアーで来日した児童10名が、東京2020大会競技開催都市である横浜市を訪問。児童・生徒の皆さんと交流しました。

まず向かったのは東京2020大会の野球・ソフトボール会場、横浜スタジアム。ソフトボール女子日本代表チームと市立立野小6年生の皆さんの交流会と一緒に参加しました。

交流会では、市立横浜商業高校10名の皆さんがコヴェントリーの児童とペアになり語学サポート。歓迎に思わず笑みがこぼれます。選手によるデモンストレーションの後、数人が実際にバッターボックスに立って選手たちの剛速球を体感。あまりの速さに思わず固まってしまう子も。その後チームに分かれ玉入れに挑戦しました。

横浜スタジアムの施設見学を行った後、新横浜のラーメン博物館へ移動し昼食タイム。ここからは市立篠原中6名、大綱中3名の生徒の皆さんが語学サポートしてくれます。

最後は、ラグビーワールドカップ2019のイングランド代表チーム決勝の地であり、東京2020大会でサッカーの舞台となる横浜国際総合競技場施設ツアーへ。コヴェントリーの皆さんもラグビー決勝をテレビ観戦していて、選手と同じフィールドにみんな大興奮。控室など普段入ることの出来ない施設の裏側で熱心に写真を撮ったり、フィールドで引率の先生たちと競走したり、VIP席に座ったり。各自思い思いに、競技場の壮大なスケールを満喫していました。

語学ボランティアを務めてくれた生徒の皆さんも、「自分の英語が英国の小学生に通じるか不安だったけど、皆とても協力的で、最後には仲良くなれて参加して良かった」「普段できないことに挑戦してみた良かった」「言葉の壁があってもスポーツを通してコミュニケーションをとることができると再確認できた。」「英語で話すことの楽しさを知れた。」「日本との色々な違いも知ることができ、自分も日本について色々な事を伝えることができたと思う。」と、貴重な体験を楽しんでくれたようでした。



2020/01/28 川崎市

朝原宣治氏と多川知希氏の講演より ～GO GB 英国フェスティバル～英国をもっと好きになろう!～

11月23日(土・祝)高津市民館で「GO GB 英国フェスティバル～英国をもっと好きになろう!～」を開催しました。当日は荒天にも関わらず多くの家族連れでにぎわいました。

本イベントのトークショーゲストとして、北京2008大会の4×100mリレーで銀メダルを獲得した朝原宣治(あさはらのぶはる)氏、リオ2016大会の4×100mリレーで銅メダルを獲得した多川知希(たがわともき)氏をお迎えし、お話を伺いました。

ロンドン2012大会をお手本に～朝原宣治氏の講演より

ロンドン2012大会では、陸上の解説者として大会に関わった朝原氏は、「ロンドンオリンピックはこれまでで最高の大会だったと思う」とし、その理由の一つとして、ご自身がロンドンのスタジアムで体験した超満員の盛り上がりの様子について語りました。特に10,000mで英国のファラー選手が優勝した時の表彰式では、会場中が総立ちで国歌を大合唱する様子に「鳥肌が立った。あのような一体感を東京でも味わえたら最高だと思う」と話しました。

「ロンドン2012大会をお手本に、日本でもさまざまなレガシーを残すことが大切」とし、「スポーツに参加できる機会を増やしたり、文化交流を続けることはもちろん、子どものために学校の部活動に代わるクラブのような仕組みも出来ればいい」という考えを述べました。



9万人の観客で埋め尽くされたロンドン2012パラリンピック～多川知希氏の講演より

多川氏は、生まれつき右前腕部が短い障害があります。ロンドン2012大会では、100m(T46)で5位、4×100mリレー(T42-46)で4位。リオ2016大会では100m(T47)で9位、4×100mリレー(T42-47)で銅メダルの成績を残しました。「クラウチングスタートの時に肩の高さを合わせるため」に、美しい龍の絵が描かれた重さ約200gの義手を着けています。

多川氏は現在33歳。東京2020大会で100mに出場するために、今はトレーニングに励む日々です。リオ2016大会ではゴールした時点で4位でしたが、アメリカチームの失格で繰り上がり銅メダルとなりました。東京2020大会出場についても「最後まで諦めず頑張りたい」と意欲を語りました。

多川氏がリオ2016で銅メダルを獲った4×100mリレー(T42-47)は、東京大会では行われません。代わりに開催される競技のユニバーサルリレーについて「さまざまな障害を持った選手が男女混合で走るところに注目してほしい」と見どころを紹介しました。

パラスポーツの楽しみ方について問われると、「パラスポーツは、ただ障害を持っている人が行っている競技ではない」ことを強調した上で、「(パラアスリートが)それぞれの困難を乗り越えて、大きな舞台に立っているところをしっかりと理解すると、また見方が変わると思う」と語りました。



ス

2020/04/23 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020大会延期に関する 英国オリンピック委員会、英国パラリンピック委員会 およびUKスポーツによる共同声明

3月24日(火)、国際オリンピック委員会と東京2020組織委員会は、新型コロナウイルスの世界的な大流行を受け、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を延期し、遅くとも2021年夏までに開催することを発表しました。これを受け同日、英国オリンピック委員会、英国パラリンピック委員会およびUKスポーツは、共同声明を発表しました。



BOA、BPA、UKスポーツ共同声明(2020年3月24日)私訳

英国オリンピック委員会(BOA)、英国パラリンピック委員会(BPA)、UKスポーツは、東京2020オリンピック・パラリンピック大会の延期のニュースを歓迎します。

BOA アンディ・アンソンCEO

「延期を受け入れるのは非常に胸が痛みますが、COVID-19が国民、コミュニティ、家族に及ぼした壊滅的なインパクトに照らして勘案すると、我々が支持する判断はこれ以外にありません。UKスポーツおよびBPAとともに、夏季オリンピック・パラリンピックスポーツの国内統括団体、ならびにBOAのアスリート委員会および英国アスリート委員会を含むアスリート代表グループとも協議しました。関係者一同は、COVID-19がアスリートのトレーニングや大会準備に与えた負の影響は、もはや挽回可能な範囲を超えたという点において一致しています。今は東京2020大会のことを考えるのをやめ、家で安全に家族と過ごす時です。このような時に国内でも世界においてもオリンピックに向けた準備を続けるのは、やはり困難を極めます。延期は正しい判断です。我々は東京2020組織委員会、そしてIOCの委員の方々が、この困難な課題から良い結論を導き出すためのご苦勞は大変なものであると認識しています。オリンピックは我々の希望の証であり、この暗黒期から世界が再び立ち上がる瞬間を東京で迎えることができると確信しています」。

UKスポーツ サリー・マンディCEO

「IOC、IPCおよび日本による東京2020オリンピック・パラリンピック大会の延期決定を歓迎します。我々が直面している前例のないグローバルな課題を踏まえ、本日発表されたことによって、アスリート、コーチ、サポートスタッフが、この非常に困難な時期に本当に重要なことに専念でき、本人と家族の安全を保つことができるようになりました。COVID-19によって引き起こされた混乱による延期が、関連する組織等にとっても大きな経済的影響を与えることを認識しており、幅広い影響とシナリオを特定するために懸命に取り組んでいます。夏季オリンピック・パラリンピックのスポーツとアスリートをサポートする最善の方法を確立するため、政府と緊密に連携しています。このような困難な時期に地域社会への支援や自宅にいながアクティブに活動する姿を見せてくれるなど、さまざまな形で自分のやるべきことを果たしているすべてのアスリートに感謝します。大会は延期されますが、スポーツが再び国民を鼓舞する力になると強く信じています」。

BPA マイク・シャロックCEO

「英国パラリンピック委員会は、COVID-19のパンデミックにより東京2020オリンピック・パラリンピック大会を延期する決定を全面的に支持します。この世界的な危機を阻止し、人々の健康と幸福を守るために可能な限りあらゆることを行うことこそが、いま最優先されるべきです。この決定により世界のパラリンピック選手達に明確な方向性が出たことを歓迎します。同時に、今夏東京で最高の結果を出すためにこれまでの4年間努力を続けてきた選手たちにとっては、困難な状況であることは否めません。英国パラリンピック委員会は、我々の選手が2021年に最善の準備ができるよう、緊急事態計画をすでに実行しています。この規模のイベントの延期には、膨大な要素を考慮する必要があり、東京組織委員会、IOC、IPCで活動する我々の友人が直面している課題がどんなに大きなものであるか、理解しています。今こそ、この世界的な脅威を克服するために私たち全員が協力する時です。スポーツには人々を奮い立たせ、結びつける特別な力があります。東京オリンピックとパラリンピックは、全世界にとって希望の証になると確信しています。この前例のない時代から再び世界が復活することを期待しています」。

オリンピック延期というこの決定が、東京オリンピック・パラリンピック大会を運営する素晴らしい組織であるIOC、東京2020大会組織委員会、および日本政府の準備状況によるものでは決してないことを明言いたします。

我々の思いは、COVID-19の影響を受けた家族や個人、およびコミュニティの安全を守るために最前線で働いている方々(UKスポーツ関係の医療従事者を含む)にあります。

また、長い時間をかけてハードなトレーニングを積んできた末に、キャリアと自らの達成目標に影響を受けている英国内外の何百人ものアスリートにも心を寄せています。

来年夏のオリンピックに向けてしかるべき時に、オリンピック・パラリンピックのアスリートと共に東京にうかがうことをお約束するとともに、この大会がこれまでかかっていた試練の時を経て再興した世界の祝典となることを期待しています。

2020/11/18 川崎市

カワサキテディ&ローズで、おうちから英国を応援しよう

ぬいぐるみとバラを飾ってニューノーマルな英国応援を

川崎市では、2021年夏に事前キャンプにやってくる英国代表チームを応援する取組のひとつとして、自宅や店舗の外から見える場所に、ぬいぐるみ(テディ)とバラの花(ローズ)を飾り、SNSで発信していくニューノーマルなおもてなし「カワサキテディ&ローズ」を始めました。

参加方法は簡単～テディベアとバラを飾るだけ

テディ(ぬいぐるみ)とバラ(ローズ)をおうちで可愛く飾ろう→写真を撮ってSNSに投稿!

お気に入りのぬいぐるみと、バラの花(生花はもちろん、造花やバラの絵、折り紙など)を、窓辺や玄関前、晴れた日にはお庭やベランダなど、外から見える場所に飾ります。その写真を、Twitter、Instagram、Facebookで、ハッシュタグ #kawasaki_teddy_rose と #gogo2020 をつけて投稿してください(写り込みや位置情報にはご注意ください)。

ロックダウン中に流行した「テディベア・ハント」

2020年春、Covid-19の感染拡大によるロックダウン期間中に、英国をはじめニュージーランドやオーストラリアなどの国々で、「テディベア・ハント」が流行しました。「不要不急の外出不可」となった日常を楽しく過ごすために、家の前庭や窓辺などにテディベアやぬいぐるみを飾り付け、近所の子どもたちが散歩がてら「くま探し」をするという遊びです。

「カワサキテディ&ローズ」では、家にある「ぬいぐるみ」に加え、イングランドの国花であり、イングリッシュガーデンでも人気の「バラ」を添えて、窓辺やベランダに飾りつけることで、英国代表チームを迎えるまちの雰囲気を出すとともに、楽しいまちづくりと、地域のコミュニケーションに役立てていただくことを目指しています。



2021/03/05 川崎市

川崎市のホスタウン広報の取組が、ホスタウンアワードで「優良情報発信賞 大賞」を受賞

2月20日(土)、21日(日)に開催された「ホスタウンサミット2021」(主催:内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部)の中で、「ホスタウンアワード」の発表があり、川崎市の「カワサキテディ&ローズ」と、「英国応援動画～Message for GB teams」の取組が「優良情報発信賞 大賞」を受賞しました。

今回受賞した「優良情報発信賞」とは、ホスタウン自治体が、ホスタウンの取組を地元住民や相手国・地域に広く発信するため創意工夫を凝らして行った広報に対して贈られるものです。

受賞した取組は、次の2つです。

(1) ぬいぐるみとバラを飾って参加「カワサキテディ&ローズ」

市民誰もが気軽におうちから参加できる、英国に対するニューノーマルなおもてなし。参加方法は、ぬいぐるみとバラを外から見えるようにお家に飾り、その写真にハッシュタグ(#kawasaki_teddy_rose #gogb2020)をつけてSNSで発信します。

(2) ボランティアが英語でメッセージを発信「英国応援動画～Message for GB teams」

英国代表チームへエールを送るため、英国代表チーム川崎キャンプサポーター(ボランティア)による「川崎を英国の“ホーム”にする」との熱いメッセージを、川崎らしい風景とともに、動画にまとめています。完成した動画は英国へ送付すると同時に、川崎市の公式YouTubeチャンネルにて一般公開しています。



2020/07/28 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

‘Dear Tokyo’東京2020オリンピック1年前 ~Team GB からメッセージが届きました

Team GB から東京へ、「オープンレター」という形のメッセージ

東京2020オリンピックまであと1年となった2020年7月23日、英国オリンピック代表チーム Team GBが、東京に向けた最新の動画を公開しました。



「Dear Tokyo」で始まる動画のナレーションを担当するのは、テコンドーでオリンピック2度のメダリストとなった、ルタロ・ムハンマド (Lutalo Muhammad) 氏です。動画では、1964年にアジアで初めて開催された東京オリンピック競技大会が、復興と平和の祭典として世界をひとつにした様子を紹介するとともに、現在の困難の中において、来夏に延期となった東京2020大会が「世界の人々にとって希望の礎となり、東京が私たちを再び団結させる」と、ムハンマド氏が静かに熱く語りかけています。

東京2020大会 1 年前に際して

Team GBの最高経営責任者および選手団長(シェフ・ド・ミッション)からの言葉

Dear Tokyo,
We first met in October 1964;
the weather was warm, and the colours of autumn were starting to push their way through.
We travelled to see you in all your beauty for an event that would symbolize re-emergence and peace.
You united the world, bringing live images into our homes and pictures of moments we'd never forget.
Since then, you've held a very special place in our hearts.
Decades have passed but the memories live on.
We were due to meet again this summer, but nothing could have prepared us for what happened.
The world is hurting right now, and it needs time to heal.
We'll be apart for another year,
but they say that absence makes the heart grow fonder, and this much we know is true.
When the time comes, we'll be ready to return to your bright lights,
your captivating culture and your warm and passionate people.
23 July 2021 stands as a beacon of hope to the world.
An unparalleled celebration of unity, It will be you who brings us all together once again.
Until then, we'll keep preparing, keep improving and keep building.
Because Tokyo is What Makes Us.
With love, Team GB

また、動画の公開に際し、Team GBのアンディ・アンソンCEOとマーク・イングランド選手団長もコメントを寄せています。

アンディ・アンソンCEO

「これまでとまったく違った状況のもと、我々はもう一度、東京2020オリンピック大会の1年前を迎えることとなりました。誰にとっても困難であった4か月の期間、Team GBの全てのアスリートと、Team GB に関わる全ての人々が示した態度や取組について、我々は非常に誇らしく思っています。アスリートには国民の心を一つにする力があります。彼らの姿を見ることで、人々は再び来年の夏の東京を待ち望むようになるに違いありません。」

マーク・イングランド選手団長

「今日は、本来であれば、東京2020オリンピック大会の開会式前夜であるということは、とても信じ難いことです。我々が目指すのは、常にTeam GBが東京で最も準備が整ったチームになることであり、大会が延期されたとしてもそれは変わりません。ロックダウン以前のチームは、申し分のない状態にあり、貴重なパートナー、関係者、そして舞台裏で辛抱強く取り組んできたチームのおかげで、依然として、同じ状態を保っていると言っても過言ではありません。何よりもまず、この期間にTeam GBとその競技のアンバサダーを務めたアスリートに感謝したいと思います。来年の夏、彼らは国民の誇りとなるでしょう。」

英国オリンピック代表チーム (Team GB) のページ (英語) <https://www.teamgb.com/news/news-listing/50Xi8CHeucGxapHCg5kstV>

2021/04/15 川崎市

ボランティアや市職員、川崎の子どもたちから英国へ応援メッセージ動画を公開!

‘Dear GB Teams’～川崎から英国にエールを

川崎市では、英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプを受入れるにあたり、英国代表チームへエールを送るため、英国代表チーム川崎キャンプサポーター（ボランティア）からのメッセージをまとめた「英国応援動画」を制作しました。

英国代表チームの選手及びスタッフの皆さんに、川崎を「第2の故郷」と感じてもらえるよう、安心してリラックスできるトレーニング環境づくりを行う意志を、“We will make Kawasaki your home（川崎を英国のホームにします）”というメッセージに込め、川崎らしい風景とともに発信します。

東京2020大会開催まであと100日～子供たちから“GOGB”

川崎市等々力陸上競技場で行われる英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプに向け、川崎市では今年、3本の応援メッセージ動画を制作しました。これら3本のうち、川崎市長以下、市職員たちによる「One Team」と、川崎市内の小学生たちによる「GOGB with Kawasaki school children」の2本の動画を、東京2020オリンピック開会100日前となる4月14日（水）に公開しました。

動画は、川崎市公式YouTubeチャンネルで公開しています。

応援メッセージ動画 (1)

「We will make Kawasaki your home」(1月19日公開)



応援メッセージ動画 (2)

「One Team」(4月14日公開)



応援メッセージ動画 (3)

「GOGB with Kawasaki school children」(4月14日公開)



2021/02/01 横浜市

Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージで、横浜から英国代表チームへ笑顔を贈ります

横浜市は英国の事前キャンプ地、ホストタウンとして、これまで英国と横浜をつなぐ様々な取組を行ってきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、英国との直接的な交流が難しい状況が続いています。そこで、東京2020大会に向け英国で地道な努力を行っている、英国代表チームのみなさんに横浜から笑顔と元気を届けたい! その思いを胸に、10月31日（土）、11月1日（日）に横浜、日本大通りで開催された「秋のローズ&ガーデンマーケット2020」にて、英国等事前キャンプ・ホストタウンPRブースにご来場いただいた市民の皆様の写真撮影を実施しました。

当日は素晴らしいお天気のもと、約180組、300人以上の市民の皆様にご協力をいただき、たくさんの笑顔の写真が撮れました! ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。撮影した写真は応援メッセージと共に3篇のスライド映像に編集し、英国代表チームにもお届けします。私たちはこれからも、英国と横浜の絆を深め、さまざまな分野で交流が続くことを心から願っています。スライド映像は、こちらのURLよりご覧ください。



【Youtube 横浜市東京2020関連情報公式チャンネル】

Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージ Vol 1.
<https://youtu.be/jEH4UB3-6k>



Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージ Vol 2.
<https://youtu.be/xPHYJ7VwLS8>



Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージ Vol 3.
<https://youtu.be/CILRZTbHdII>



2021/06/23 横浜市

英国パラトライアスロンチームからのメッセージが届きました! ～英国と横浜 映像でつながる絆～

5月15日(土)、16日(日)、世界トライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会が、徹底した新型コロナウイルスの感染防止対策の下、2年振りに無観客で開催されました。

横浜市は、英国の事前キャンプ地・ホスタウンとして、2018年より横浜大会に出場する英国トライアスロン、パラトライアスロンチームと市内小学校との交流を行ってきましたが、今回は残念ながら直接の交流は実現しませんでした。そこで少しでも応援の気持ちを伝えるべく、市民の皆様にご協力いただき制作した「Yokohama, Friends of Great Britain! Photo応援メッセージ」を英国トライアスロンチームへお届けした所とても喜んでいただき、横浜大会に出場した英国パラトライアスロンチームのコーチと、見事メダルを獲得した選手よりお礼のビデオメッセージをいただきました。ぜひご覧ください。

【Youtube 横浜市東京2020関連情報公式チャンネル】<https://youtu.be/3zpxlHcKTrc>(英語)
※冒頭録音状況により、音声小さくなっております。ご了承ください。



【参考和訳】



Jonathan Riall

ジョナサン・ライアル コーチ(英国パラトライアスロン ヘッドコーチ)

英国パラリンピックムーブメントと英国パラリンピックチーム、とりわけ毎年ここ横浜を訪れるトライアスロンチームをサポートして下さる横浜の皆さまに深く感謝いたします。我々は、2014年以来毎年この地を訪れており、ここが大好きです。今日は、ジョージとマイケルがレースに参加し、非常に素晴らしいレースを行い、ジョージが優勝、マイケルが2位となりました。皆さまにサポートいただくこと、横浜に戻ってこられることを、いつも嬉しく思います。8月にまた戻ってこられるよう願っており、もちろん来年も同様で、皆さまに直接お会いできることを願っております。本当にありがとうございました。また近いうちに会いましょう



Michael Taylor

マイケル・テーラー選手(パラトライアスロン選手)

今回、このような素晴らしい大会にお招きいただき、横浜市にお礼を申し上げます。この大会は非常に素晴らしいもので、皆さまからのとても温かい歓迎の気持ちを感じることができ、十分楽しむことができました。また、お陰様で、いただいた応援メッセージ動画でモチベーションを維持することが出来ました。そして結果、銀メダルを獲得しました。本当にありがとうございます。また近い将来、戻ってこられることを願っています。



George Peasgood

ジョージ・ピースグッド選手(パラトライアスロン選手)

今週送っていただきました応援メッセージ動画ですが、横浜市の皆さんに深く感謝します。動画は本当に感動的で今回の試合に臨む上で、とても勇気づけられました。また、ワールドトライアスロン・パラトライアスロンシリーズ横浜大会を開催して下さったことに深く感謝いたします。競技が再開できることは非常に喜ばしく、とても素晴らしい雰囲気の中で行われました。僕もレースを非常に楽しむことができました。本当にありがとうございました。

2020/11/20 横浜市

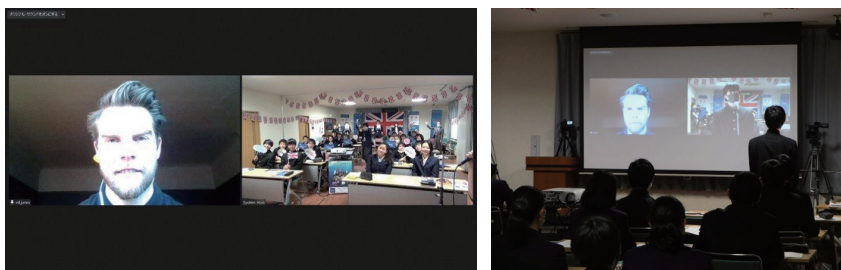
「英国オリンピック委員会 マーケティング責任者オンライン講演会」が横浜商業高等学校で行われました

2020年11月18日、横浜商業高等学校において、英国オリンピック委員会(BOA)マーケティング責任者のエド・ジョーンズ氏が、横浜商業高等学校のスポーツマネージメント科および国際学科で学ぶ1~3年生を対象に、「An introduction to the Brand and Team GB's campaigns-英国オリンピック委員会のブランド開発および東京2020大会に向けたキャンペーン」をテーマにオンラインで講演会を行いました。

はじめに、ジョーンズ氏から、英国オリンピック委員会が行ってきたブランド開発とその取組について紹介したのち、前半では、Team GBが、ブランドを通して、どのように英国国民の関心を高め、英国で最も愛されるスポーツチームとなるまでに認知度を高めてきたのかについて講演されました。

後半では、ブランド持続のために、BOAが、ロンドン2012大会のレガシーとして取り組んできた教育プログラムの紹介や、東京2020大会に向け展開されているキャンペーンなどについて紹介がありました。

最後に、生徒との質疑応答。生徒からは「日本とイギリスでのオリンピックの盛り上げ方の違いやイギリス独自の盛り上げ方を教えてほしい。」「今後数か月のうちに、自身のビジネスを立ち上げたいが、低予算で効果的に宣伝広告するにはどうすれば良いでしょうか。」など具体的な質問が飛び交い、ジョーンズ氏から丁寧な回答・アドバイスがありました。



2020/12/18 横浜市

「英国をもっと知ろう」横浜市立北山田小学校でオンライン交流会が行われました

2020年12月17日、横浜市立北山田小学校(都筑区)において、横浜市在住英国人、ジェニファー・スミスさんと5年生児童が、オンラインで交流会を行いました。

最初に、英国代表競泳チームのエイミー・ウィルモット選手から横浜市の皆さんに送られたメッセージ動画を観ました。

エイミー・ウィルモット選手は、2019年に横浜国際プールで行われた、世界水泳大会に向けた事前キャンプにも参加していた選手で、「いつも応援していただきありがとうございます。今度、横浜で行われる事前トレーニングキャンプを楽しみにしています!」とメッセージを送ってくれました。

動画を観たあとは、ジェニファーさんから、英国に関するクイズの出題。クイズの途中、ジェニファーさんは、2012年のロンドンオリンピックの思い出についてお話してくださり、大会の開会式では、音楽なども含め、演出にロンドンらしさが散りばめられ、大変印象深かったとのことでした。聞いていた児童の皆さんも、2021年に予定されている東京大会の開催がより一層楽しみになった様子でした。

クイズの後は、今回の交流会メインとなるジェスチャーゲームが始まりました。

ここでもまた、ジェニファーさんから、英語の勉強となるような英単語や簡単な英文を教わり、児童の皆さんも早速、英会話に挑戦しながらジェスチャーゲームを楽しみました。

最後は、スクリーンに映るジェニファーさんと記念撮影。その後、児童の皆さんから、ジェニファーさんにお礼の言葉が述べられ、交流会が終了しました。



2021/01/05 横浜市

「英国の知見から学ぶ インクルーシブ・デザイン オンラインセミナー」を実施!

横浜市は、東京2020大会における英国代表チームの事前キャンプ地・英国ホストタウンとして、また、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーの取組を実施する共生社会ホストタウンとして、これまで様々な取組を行ってきました。

この取組の一環として、英国の公的な国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルや、ロンドンパラリンピックのレガシーとして設立されたグローバル・ディスアビリティ・イノベーション・ハブ(GDI Hub)のご協力のもと、2020年12月に、横浜市内スポーツ団体、スポーツ施設関係者等を対象とした、英国出身講師によるオンラインセミナーを開催しました。

「スポーツ施設におけるインクルーシブ・デザイン」をテーマに、現地英国とオンラインで繋いで行われたこのセミナーは、GDI-Hub オペレーション&インクルーシブ・デザイン部門ディレクター Iain MacKinnon(イアン・マッキノン)氏を講師にお迎えし、「インクルーシブ・デザイン」というデザイン手法についての説明や、ロンドン2012大会の開催経験を踏まえたバリアフリーに関する事例をご紹介いただきました。また、質疑応答では横浜のスポーツ施設におけるバリアフリー化等についてもご意見を頂くなど、当日の聴講者にとっても有意義な機会となりました。

～共生社会ホストタウン事業～
インクルーシブデザイン・オンラインセミナー

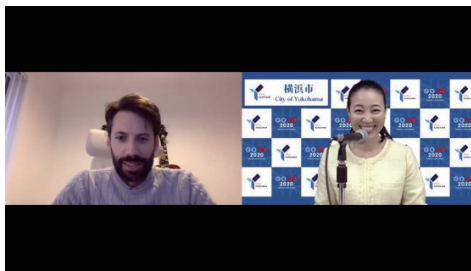
GO GB 2020 FRIENDS OF GREAT BRITAIN

■日時: 2020年12月11日(金)
18:00～19:00

■講演者: イアン・マッキノン 氏

横浜市市民局オリンピック・パラリンピック推進課
協力: ブリティッシュ・カウンシル

UK IN JAPAN



ご視聴になりたい言語の
QRよりご覧ください。

日本語での視聴

英語での視聴



2021/03/11 横浜市

「英国パラリンピアンからのメッセージ ～共生社会を考える～」オンラインセミナー実施!

横浜市は、東京2020大会における英国ホストタウンとして、また、ユニバーサルデザインの街づくりや心のバリアフリーの取組を実施する共生社会ホストタウンとして、これまで様々な取組を行ってきました。

2021年3月19日、オンライン交流の一環として、ブリティッシュカウンシル協力のもと、2016年のリオデジャネイロパラリンピックにて金メダルを獲得した、英国パラリンピアンのスージー・ロジャース氏を講師にお招きし、ご自身の経験をもとに共生社会について考えるオンラインセミナーを配信しました。

引退後、「ディスアビリティ・インクルージョン」についてグローバルに講演するなど、共生社会に関し精力的に活動されているスージーさんが現地から生出演。「ディスアビリティ・インクルージョン」とは、障害のあるすべての人に教育、雇用、余暇など社会のあらゆる分野への参画機会を確保して必要なサポートや体制を提供し、障害のある人もない人も共生し包み込んでいくという考え方。

そのためには、物や施設のバリアフリーだけでなく、心のバリアフリーの推進が必要で、多くの障害のある人を知る機会が大切であり、パラリンピックでのアスリートの活躍は、障害者を知る最初のきっかけになりうるし、いろいろな人が集まって協力するパラリンピックをロールモデルとし日常生活に役立てて欲しいと、直接メッセージを聞くことができました。参加者からの質問にも答えていただくなど、貴重なセミナーとなりました。

英国パラリンピアンからのメッセージ
～共生社会を考える～ オンラインセミナー

GO GB 2020 FRIENDS OF GREAT BRITAIN

■日時: 2021年3月19日(金)
17:30～18:30

■講演者: スージー・ロジャース 氏

横浜市市民局オリンピック・パラリンピック推進課
協力: ブリティッシュ・カウンシル

UK IN JAPAN



ご視聴になりたい言語の
QRよりご覧ください。

日本語での視聴

英語での視聴



2021/07/01 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020オリンピック・パラリンピック英国代表チーム 横浜市・川崎市・慶應義塾大学で事前キャンプを開始

東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた英国代表チームの事前キャンプが、横浜市・川崎市・慶應義塾大学でスタートします。今回の事前キャンプは、英国と横浜市・川崎市・慶應義塾大学の3者が平成28年より数年にわたる調整準備を重ねた結果、実現するものです。

事前キャンプの実施にあたっては、大会組織委員会や国等から示された「プレイブック」等に基づき、英国代表チームと横浜市・川崎市・慶應義塾大学が連携し、事前キャンプ期間中の感染症対策を徹底し、安全・安心な事前キャンプを運営します。



〈事前キャンプの概要〉

英国代表チーム全体の規模

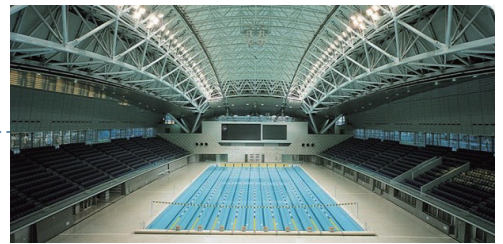
【オリンピック】約600人 【パラリンピック】約200人

横浜国際プール(横浜市)

キャンプ期間：【オリンピックのみ】令和3年7月12日～8月5日

人数：約50人

競技：●水泳／競泳・アーティスティックスイミング・飛込(ダイビング)



等々力陸上競技場、補助陸上競技場(川崎市)

キャンプ期間：【オリンピック】令和3年7月9日～8月2日

【パラリンピック】令和3年8月14日～9月2日

人数：【オリンピック】約200人

【パラリンピック】約100人

競技：【オリンピック】●陸上競技 ●サッカー ●7人制ラグビー

【パラリンピック】●陸上競技



慶應義塾大学日吉キャンパス

キャンプ期間：【オリンピック】令和3年7月8日～8月7日

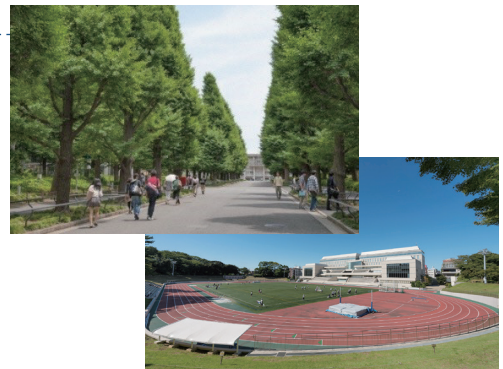
【パラリンピック】令和3年8月13日～9月1日

人数：【オリンピック】約400人

【パラリンピック】約100人

競技：【オリンピック】●アーチェリー ●ボクシング ●柔道
●ウエイトリフティング ●バドミントン ●フェンシング ●ホッケー
●テコンドー ●バスケットボール ●体操 ●近代五種 ●卓球 ほか

【パラリンピック】●アーチェリー ●テコンドー ●パワーリフティング
●柔道 ●車いすフェンシング



前述の3施設のほか、次の2施設も使用予定です。

横浜カントリークラブ

【利用方法】一般客が利用していないゴルフコースをランニング

【利用期間】令和3年7月16日～7月31日(早朝、夕方)

【競技及び人数】陸上競技(ロード)ほか 約30人

パシフィコ横浜ベドストリアンデッキ

【利用方法】デッキの一部を市民等との接触がないよう区分し、ジョギングやトレーニングなどの軽い運動

【利用期間】令和3年7月9日～7月28日(午前のみ)

【競技及び人数】ボクシング・サッカー・ホッケーほか 約50人

※7月1日から各施設で順次、英国オリンピック委員会(BOA)スタッフによる事前準備を実施。

※複数施設で練習する選手がいるため、各施設の人数は重複していることがあります。

※上記の内容は現時点の情報であり、今後、変更となる可能性があります。

2021/07/01 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

安心・安全な事前キャンプ運営に向けた感染症対策

英国代表チームの皆様が安心して事前キャンプを実施し、市民の皆様も安心して英国代表チームの皆様をお迎えしてもらうため、三密の回避、社会的距離の確保、マスクの着用、手洗い・消毒などの基本的対策を徹底するとともに、「プレイブック」(IOC、IPC、大会組織委員会)や国からの指示等に基づき、主に次の対策に取り組みます。

なお、昨年末以降の変異株の発生・流行など、日々刻々と変化する状況や求められる対策等に適切に対応してまいります。(下記の対策は令和3年6月30日時点の内容です。)

(1) 英国代表チームの出入国時における感染症対策

- 出発2週間前から隔離措置を始め、隔離生活期間中に合わせて5回検査を実施する。
- 出国前3日間、毎日検査を実施し、陰性証明を取得し、検疫又は入国審査時に提出する。
- 入国前14日間の健康モニタリングを提出する。
- 入国時、空港にて検査を受検する(検査結果判明まで指示した待機場所に留まる)。



(2) 英国代表チームの事前キャンプ期間中の感染症対策

(ア) スクリーニング検査

- 事前キャンプ地に滞在中の選手等に対し、毎日検査を実施する。

(イ) 選手等の行動管理

- 選手等の行動は、宿泊施設と練習会場等の用務先の往復のみに限定する。

(イ) 選手等の行動管理

- 公共交通機関は利用せず、専用車両で移動する。
- 宿泊施設において、他の宿泊客との接触を避けるため、宿泊フロアや動線を分離する。
- 食事は他の宿泊客等との接触を避け、宿泊施設内の専用会場で摂ることを原則とする。
- 練習会場は、貸切を原則とし、関係者以外の立入りは不可とする。

(3) 事前キャンプ関係者の感染症対策

- 事前キャンプに関わる市職員や宿泊施設・練習会場などの関係者には、ワクチン接種(任意)や、活動に従事する14日前から検温・体調チェックを実施する。
- 英国代表チームとの接触の度合いに応じて、定期的に検査を実施する。

2021/07/09 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020オリンピック・パラリンピック英国事前キャンプに向けて 英国オリンピック・パラリンピック代表チーム団長がコメントを発表



横浜市・川崎市・慶應義塾大学で行われる英国代表チームの事前キャンプに向けて、英国オリンピック代表チーム団長のマーク・イングランド氏、英国パラリンピック代表チーム団長のペニー・ブリスコー氏がコメントを発表しました。

英国代表チームの皆様が、大会で最高のパフォーマンスを発揮していただけるよう、横浜市・川崎市・慶應義塾大学で連携し、感染症対策を徹底して事前キャンプを運営します。

【英国オリンピック委員会 参考和訳】

東京2020オリンピック英国代表チーム選手団長、マーク・イングランド (Mark England) 氏からのコメントです。

「大切なパートナーである横浜市・川崎市・慶應義塾大学のご支援のおかげで、オリンピック開催前に英国代表チームの選手にとって重要な事前キャンプを実施できることになり、心より御礼申し上げます。」

「私たちは市民、選手、選手団の健康と安全を最優先に考えております。また、私たちはこの後訪日しますが、全員の安全を守るために事前キャンプ関係者の皆様が準備を重ねてくれたことに感謝いたします。」

東京2020組織委員会と日本政府によって共同製作された東京2020大会の公式「プレイブック」と「ホストタウン等における選手等受入れマニュアル」(内閣官房)に基づいて、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、英国との協力のもと、安全・安心な事前キャンプを運営します。オリンピック・パラリンピック英国代表チームと市民の全員の健康と安全を守るため、「プレイブック」等に基づいて、次のとおり新型コロナウイルス感染症対策を徹底します。

① 選手団の出入国時における感染症対策

- ・入国前に14日間の自己隔離を実施し、新型コロナウイルス検査を計5回実施する。陰性結果証明書を取得し、検疫または入国審査時に提出する。
- ・入国前に14日間の健康観察を実施し、その記録を提出する。
- ・空港到着時、新型コロナウイルス検査を受ける(検査結果が判明するまで専用の場所で待機する)。

② 事前キャンプ期間中の感染症対策

- a.スクリーニング検査:キャンプ地に滞在している選手等は、事前キャンプ期間中を通じて毎日スクリーニング検査を受ける。
- b.選手団の行動管理:選手等の移動は、宿泊施設と練習会場などの用務先の往復のみに限定する。
- c.市民との接触を避けるための対策:選手等の移動には、公共交通機関ではなく専用車両を使用する。他の宿泊客との接触を避けるため、チームの宿泊フロアや動線を分離する。食事は専用の食事室のみで行う。

③ ホストタウン関係者の感染症対策

ホストタウンの事前キャンプに従事する市職員、宿泊施設や練習会場の関係者は、ワクチン接種を受け(任意)、従事前14日間の健康観察を実施する(毎日の検温を含む)。接触の度合いに応じて、定期的にスクリーニング検査を受ける。

【英国パラリンピック委員会 参考和訳】

東京2020パラリンピック英国選手団長、ペニー・ブリスコー(Penny Briscoe)氏からのコメントです。

「選手の事前キャンプを運営するため、パートナーである横浜市・川崎市・慶應義塾大学と緊密に連携・協力してきました。また、英国と日本のチーム全体で、選手団や市民の健康と安全を最優先に考え、入念な計画を立ててきました。」

『プレイブック』に基づき、チーム全員の安全を守るために、検査を含むさまざまな感染症対策を徹底します。パートナーの皆様との緊密な協力のおかげで事前キャンプを実施できることになり、心より御礼申し上げます。選手たちは、皆様が私たちのためにご尽力いただいたことに感謝しており、訪日を心待ちにしております。」

【原文】

Team GB Chef de Mission for the Tokyo Olympic Games, Mark England, said:

“We are extremely proud and grateful for the ongoing support that we have received from our valued partners in Yokohama, Kawasaki and Keio University in ensuring that we can provide the optimum Preparation Camp for Team GB athletes before they compete at the Tokyo Olympic Games. ”

“The health and safety of the Japanese public and of the athletes and our delegation remains our number one priority and we know that our Preparation Camp partners have gone above and beyond to guarantee the safety of everyone when we arrive in country later this month.”

We will fully comply with all COVID-19 Countermeasures pertaining to the official Games ‘Playbooks’ produced by Tokyo 2020/Japanese government and ‘Host Town Acceptance Manual’ to deliver safe and secure preparation camps in cooperation with the UK.

To safeguard all members of the Team GB and ParalympicsGB and the local residents in Japan, we will fully comply with COVID-19 Countermeasures upon the official Games ‘Playbooks’ (IOC, IPC, Tokyo 2020) and ‘Host Town Acceptance Manual’ (Cabinet Secretariat) as follows;

① Measures upon entry into and departure from Japan imposed on the delegation

All delegates need to self-isolate 14 days prior to the departure and have five COVID tests in total. They must obtain negative test certificate and submit it to the Quarantine Officer and/or at immigration control when they arrive in Japan.

All delegates need to do 14 days of health monitoring prior to departure and submit the record.

All delegates need to complete COVID-19 testing on arrival of the airport. (They will wait at the designated waiting area to get their test results).

② Measures during the Preparation Camps

a. Screening Test – All delegates who stay at camp sites will complete screening tests every day during their preparation camps.

b. Behavioral Management of the delegation – All delegates are restricted to travel only between their accommodation venues and their business destinations such as training venues.

c. Measures to avoid contact with the local residents – All delegates will use dedicated Games vehicles and do not use public transport. Any floors with Teams’ rooms booked will be blocked and separate flows to avoid contact with other hotel guests. The delegation also use their private dining room

③ Measures for Host Town staff

All staff members, who engage the preparation camps, in local governments, accommodation venues and training venues at Host Towns will be vaccinated (optional) and do 14 days of health monitoring including taking daily body temperatures. Also, they will have regular screening tests, depending on how close they get.

Ends

ParalympicsGB Chef de Mission for the Tokyo Paralympic Games, Penny Briscoe, said:

“We have been working closely and collaboratively with our partners in Yokohama, Kawasaki and Keio University to ensure that we can deliver successful Preparation facilities for our athletes. There has been a lot of planning across our teams in the UK and in Japan to prioritise the safety of our delegation and the health and safety of the Japanese public.”

“We will go beyond the measures outlined in the playbooks in a number of areas including testing to deliver a safe environment for the team. We are very grateful to our Japanese partners for working so closely with us to achieve this and our athletes are very aware of how hard everyone is working on their behalf and are looking forward to arriving in Japan.”

2021/07/14 横浜市

ようこそ英国水泳代表チーム！ 北山田駅前広場に「GO GB 2020」のデザインマンホール設置！

事前キャンプに合わせ、『GO GB! ガンバレ英国!』のロゴマークをデザインした11枚のマンホールの蓋を北山田駅前広場に設置しました。

区民一同、東京2020大会に向けて練習をしている英国水泳選手の皆様にエール送ります。

コロナの影響に伴い、選手のみなさんは公共交通機関も利用できないため、直接見ていただくことはできませんでしたが、横浜国際プールの練習会場内にレプリカを展示し、英国選手団の皆様にご覧いただきました。



2021/07/20 横浜市

都筑区内の小学校が 英国オリンピック水泳代表チームと交流を行いました！！

いよいよ始まる東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、7月12日から英国水泳代表チームが横浜国際プールで事前キャンプを行っています。

都筑区のオリンピック・パラリンピック教育推進校である東山田小学校、北山田小学校、牛久保小学校の児童が、英国水泳選手やコーチ等とオンラインで交流したほか、GO GB旗など3種類の旗にチームを歓迎し応援するメッセージを記入して贈る取組を実施しました。

オンライン交流では、児童から選手たちに熱心に質問した後、心こもったエールをおくるなど、貴重な交流の機会となりました。



2021/07/21 横浜市

東山田小学校の児童が英国オリンピック水泳代表チームを サプライズでお見送りしました！！

7月20日、横浜国際プールで事前キャンプを行った英国オリンピック水泳代表チームが、選手村に向けて出発しました！

英国代表水泳チームが、横浜国際プールでの練習が最後になったこの日、サプライズで東山田小学校5年生と6年生が校庭から英国選手のお見送りをしてくれました。

バスに乗り込む英国の選手のみなさんは、思いがけない突然の交流にとっても驚いていました。

フェンス越しに子どもたちは手旗を振りながら「GO GB! (ゴージービー・がんばれ、英国)」コールで選手にエールを送り、バスに乗り込む前に選手達も、子供たちに向けて手を振り、とても嬉しそうにエールに応えてくれました。

選手を見送った子どもたちは、短い時間でしたがオリンピック代表選手を間近に見る貴重な機会に興奮していました。



2021/07/28 川崎市

英国オリンピック代表チームが、川崎市等々力競技場での事前キャンプ期間中に公開練習を開催しました

7月17日(土)、英国代表男子ラグビーチームは公開練習を開催し、川崎市内のラグビースクールに通う小中学生たち約150人が練習を見学しました。

公開練習は午前10時30分から約1時間行われました。キャプテンのトム・ミッチェル選手は、「おはようございます」と日本語で挨拶をしたあと、英国代表チームへの応援を呼びかけました。練習を見学した子どもたちからは、「(オリンピック選手を)実際に見ることができて良かった!」、「みんな足が速くて驚いた」と、喜びの声が聞かれました。

7月25日(日)に行われた陸上競技チームの公開練習では、川崎市立学校の陸上部部員と、市内陸上クラブの選手及び引率者ほか約340名がスタンドからオリンピック直前の選手たちの練習を見学しました。

観覧者は、受付で検温・手指消毒を済ませたあと、2階席スタンドから選手たちの練習を見学しました。声を出さないよう、拍手や旗を振るなどして、静かに選手たちを応援しました。



2021/08/03 川崎市

英国代表チーム事前キャンプでボランティアの「おもてなし」が大好評

事前キャンプを陰ながら支えるサポーター

英国オリンピック代表チームの事前キャンプでは、約100名のボランティア「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」が、選手たちの受け入れ活動を行いました。新型コロナウイルス感染症対策のため、基本的に選手たちに直接のサポートを行うことができませんが、選手車両の誘導や、競技用具のセットアップなど、練習環境を整えるため、さまざまな場面で活躍しました。

創意工夫を凝らした「おもてなし」に選手たちも大喜び

選手たちと距離を保ちながらサポートを行うには、さまざまな工夫と努力を要しました。そのような状況下でも、自ら積極的に活動を楽しみながら、選手たちを「おもてなし」できるように努めました。メッセージボードに選手たちへのエールや問いかけをつくり、ささやかなコミュニケーションに役立てました。

選手たちのSNSには、こうした様子が写真や動画で数多くアップロードされていました。サポーターの熱い想いは、選手たちにしっかり届いていたようです。



©Photo by Sam Mellish_Team_GB



©Photo by Sam Mellish_Team_GB



2021/08/05 川崎市

英国オリンピック代表選手から感謝のメッセージが届きました

川崎市での事前キャンプを終えた選手を代表して、サッカー女子代表チームのジル・スコット選手と、ラグビー男子代表チームのキャプテン、トム・ミッチェル選手からビデオメッセージが届きました。

ジル・スコット選手より

“等々力陸上競技場のスタッフのみなさんに心から感謝をお伝えしたいと思います。とても細やかで素晴らしいサポートをいただき、本当にありがとうございます。私たちが試合で活躍できるのは、みなさんのサポートのおかげです”

181cmの長身ミッドフィルダー、ジル・スコット選手のプロフィール(英語)はこちら。
<https://www.teamgb.com/athlete/jill-scott/2J7IYV7yIvkvCDTdeHeCR>

トム・ミッチェル選手より

“Team GBラグビー男子セブンズに対する川崎市等々力陸上競技場でのおもてなしに、大いに感謝しています。事前キャンプでは素晴らしい時間を過ごすことができ、十分な試合の準備ができました”

2大会連続キャプテンを務めた、トム・ミッチェル選手のプロフィール(英語)はこちらから。
<https://www.teamgb.com/athlete/tom-mitchell/3Aeo1avytHU4ouixVg6KNr>

- サッカー女子7月9日(金)から16日(金)までトレーニングを行い、予選リーグを突破後、準々決勝で、オーストラリアに延長戦の末に 敗れ、7位入賞となりました。
- ラグビー男子は、7月16日(金)から20日(金)まで等々力陸上競技場でトレーニングを準決勝でニュージーランド(銀メダル)に敗れ、3位決定戦でアルゼンチン(銅メダル)に惜敗、4位入賞となりました。



2021/10/06 川崎市

英国パラ陸上選手にスクールバスを提供した市立田島支援学校に記念品が届きました

英国パラリンピック代表チームの事前キャンプで、夏休み期間中のスクールバスを活用

川崎市では、英国パラリンピック代表チームの事前キャンプ期間中、選手たちが宿泊先(横浜市内)と等々力陸上競技場を往復する交通手段として、市立田島支援学校のスクールバス(福祉バス)を活用しました。

普段は支援学校の児童・生徒たちを送迎するために使われているスクールバスですが、夏休み期間を利用して、英国応援の合言葉「GO GB」のロゴや川崎市英国事前キャンプPR大使である「きかんしゃトーマスとなかまたち」のイラストが装飾された特別仕様で、英国パラ陸上選手たちに提供されました。

英国パラリンピック代表チーム選手たちから届いたメッセージ動画とサイン入りTシャツなどを受け取った増田校長は、「英国のパラ陸上選手たちのために、当校のスクールバスがお役に立てるととても嬉しい」と喜んでいました。また、堀田教頭からは、「生徒や保護者のみなさん、関係者の方たちにも見ていただけるよう、式典の時などに展示したい」という言葉がありました。



2021/12/01 横浜市

英国事前キャンプ横浜市ボランティア 「横浜ホストタウンサポーター」感謝会が行われました！

10月31日(日)、「横浜ホストタウンサポーター」の感謝会を行いました。開港以来英国との縁の地・横浜市イギリス館を会場に、横浜市庁舎や都筑区で巡回展示された、英国代表チームからの感謝が沢山書かれたサインの数々や、実際に英国チームがキャンプで使用した装飾、活動中サポーターの方々に作成いただいたプラカードなどを展示。英国らしさやキャンプ当時の雰囲気が出る中、皆さんにも活動時のユニフォームを着てお集まりいただき、事前キャンプ終了以来の久しぶりの再会にまるで同窓会のような和やかな雰囲気、感謝会がスタートしました。

まず初めに、英国代表チーム事前キャンプを写真とともに振り返り。様々な記憶が懐かしくよみがえった後は、感謝を込めて、英国代表チームと横浜市からサポーターの皆さまへ記念品贈呈式です。英国オリンピック委員会からはキャンプで使用されたポスターやネックストラップ、英国パラリンピック委員会からは一人ずつ名前が入った感謝状など、ボランティア活動の記念となる品々が贈られ、横浜市からは横浜国際プールで英国チームが使用した大きな横断幕をリサイクルして製作したエコトートバックと活動記録集などを贈呈。お一人ずつコメントいただき、活動時の思い出や印象に残ったエピソードなどを共有いただきました。最後は英国オリンピック委員会、英国パラリンピック委員会など計6名の方々から、英国事前キャンプを2か月に渡り毎日力強く支えてくださったサポーターの方々に、10分以上に渡る感謝のビデオメッセージを放映。GO GB 2020のフラッグを手に全員で記念撮影を行い、感謝会が終了しました。

あっという間の一時間半でしたが、皆さま笑顔で、またいつの日か再会できることを祈りつつ会場を後にしました。



2021/11/25 川崎市

事前キャンプでのボランティア活動を振り返る 「サポーターサンクスデー」を開催しました

写真と映像で、夏の思い出を共有しました

川崎市では、事前キャンプでボランティアとして活躍した「英国代表チーム川崎キャンプサポーター」のみなさんと活動を振り返る「サポーターサンクスデー」を、11月21日(日)に川崎市中原区の「エポックなかはら」で開催しました。

事前キャンプ最終日から2ヶ月以上が経ち、久しぶりの再会となりましたが、オンライン参加者も含め66名が集まりました。

第一部:事前キャンプの記録映像を特別上映

英国代表チームの関係者3名からのメッセージ動画に続き、市で作成した事前キャンプのアーカイブ映像(約24分間)が上映されました。

また、英国代表チームから事前に提供があったポスターやグッズ等の記念品抽選会も行われ、会場は大いに盛り上がりました。

第二部:サポーターによる自主企画イベント

グループ対抗戦折り鶴の早折り対決「GO KW! Origami Championship」が行われました。

事前キャンプ期間中は、英国代表チームへの「おもてなし」として、多くの折り紙作品をプレゼントし、大変喜ばれたことから、生まれたこの企画。10分間で折り鶴をいくつ折れるか、景品をかけて真剣な勝負が繰り広げられました。

事前キャンプ受入れ時のサポーター活動やおもてなしの様子を再現

今回のイベントでは、英国代表チーム川崎キャンプ当時の装飾などを再現した展示物を用意しました。約2か月の活動期間中、サポーターのみなさんはそれぞれ従事した活動内容も、一緒に活動したメンバーも異なることから、過去の思い出を全員で共有できるように、工夫しました。サポーターによる自主企画イベントとあわせ、ボランティア精神や企画力、実行力も見事に再現された会となりました。



2021/11/19 慶應義塾大学

横浜初等部生と英国パラリンピック代表選手の交流会開催

10月27日(水)、横浜初等部の生徒と英国パラリンピック代表のクリステン・クームス選手の交流会が開催されました。

クームス選手は日吉キャンパスでの事前練習の後にバドミントン低身長部の東京2020パラリンピック大会に出場し、銅メダルを獲得しました。交流会のきっかけとなったのは、横浜初等部生が日吉キャンパスを訪れる英国代表選手たちに贈るために作成した折り紙メダルでした。新型コロナウイルス感染症の影響で当初予定していた一貫教育校生徒と選手の交流会ができなくなりましたが、大学生ボランティア団体KEIO 2020 projectの学生と横浜初等部教員の発案で折り紙メダルを募集したところ、100個以上のメダルが集まりました。クームス選手が交流を望む子どもたちの手紙や写真とともに置かれた折り紙メダルを、その気持ちとともに受けとってくださったことで、オンライン交流会が実現しました。

KEIO 2020 projectは体育研究所主催の英国オリンピック・パラリンピック代表選手団サポート組織で、慶應義塾大学の学生が中心となり、日吉キャンパスでの英国選手団事前キャンプ受け入れが決定した2016年から活動しています。その功績により、9月には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会「ホストタウン功労者」に選ばれ、丸川珠代オリンピック・パラリンピック担当大臣から感謝状が贈られました。今回の交流会はKEIO 2020 projectの学生の協力により、本番の前にリハーサル日を設けるなど入念な準備がおこなわれました。リハーサルは本番でクームス選手と話す35名の4,5,6年生の生徒たちがオンラインで集まり、当日の流れに沿って大学生と一緒に英語での質問の練習、Zoomの使い方など事前確認をしました。実際の練習に入る前や練習後に、大学生と横浜初等部生で少人数のグループに分かれて自己紹介や雑談をする時間が設けられるなど、子どもたちの緊張をほぐす工夫がこらされていました。義塾の大学生と一貫教育校生徒の交流の中でも、小大連携という貴重な事例となりました。

視聴する低学年の生徒たちも考慮し、英語と日本語両方でおこなわれた交流会当日は、子どもたちからクームス選手への銅メダル獲得のお祝いの言葉に始まり、クームス選手の好きな日本食は何か、など視聴者も参加できるクイズが行われました。続けて普段クームス選手がおこなっているエクササイズを参加者みんなで行い、最後に質疑応答、神武直彦横浜初等部長によるお礼の言葉で終了となりました。クイズの中ではクームス選手の出身地のデヴォン州が登場し、ぜひ訪れてほしい場所として紹介されました。クームス選手はメダルを披露し、緊張を和らげる方法や落ち込んだ時に立ち直る方法、今のパラスポーツに対して子どもたちにもっと今回のイベントでは、英国代表チーム川崎キャンプ当時の装飾などを再現した展示物を用意しました。約2か月の活動期間中、サポーターのみなさんはそれぞれ従事した活動内容も、一緒に活動したメンバーも異なることから、過去の思い出を全員で共有できるように、工夫しました。サポーターによる自主企画イベントとあわせ、ボランティア精神や企画力、実行力も見事に再現された会となりました。



上：交流会での記念撮影
下：折り紙メダルとKEIO2020projectメンバー

2021/11/05 横浜市

英国代表チームから横浜市へ、感謝を込めた記念品が贈呈されました！

事前キャンプが無事終わり、英国代表チームから事前キャンプ受入の感謝を込めて、選手のサイン入り写真パネルやユニフォームなど、様々な記念品が贈呈されました。

贈呈された記念品や、英国代表チームが練習施設や宿泊施設で装飾に使用していた物品は、2021年9月から10月にかけて、横浜市庁舎アトリウムや横浜国際プール、都筑区役所等で展示されました。横断幕や色紙には、サインだけでなく選手たちのあたたかい感謝のメッセージがたくさん書き込まれ、中には日本語で「Arigato」の文字も。展示の際は事前キャンプ中の写真も飾られ、市庁舎などを訪れた多くの方々の目に触れる機会となりました。

記念品の一部は練習施設となった横浜国際プールや横浜カントリークラブ、宿泊施設、代表チームと交流した小学校に寄贈されました。横浜国際プールでは選手たちのサインなどが常設展示されていますので、お立ち寄りの際はぜひご覧ください。



横浜市・川崎市・慶應義塾大学に対し、事前キャンプを終えた英国オリンピック委員会CEOアンディ・アンソン氏、英国パラリンピック委員会CEOマイク・シャロック氏から、感謝のメッセージが届きました。

英国オリンピック委員会最高経営責任者(CEO) アンディ・アンソン氏

東京2020オリンピック競技大会は、関係者の懸命な努力と選手たちの並外れた能力を結集した、他に類を見ない大会として人々の記憶に刻まれることでしょう。通常のオリンピックの開催でさえ困難なものではありますが、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが世界中で発生し、英国代表チームが目指す目標をすべて達成することは大変難しく思えました。

しかしながら、パートナーである慶應義塾大学、川崎市、横浜市による熱心で献身的なサポートのおかげで、私たちは世界トップレベルの総合的な環境でトレーニングを実施することができました。私たちが直面するすべての課題や問題を解決するために、パートナーの皆様はチーム一丸となってそれぞれの専門知識を結集し、一生懸命に、積極的にサポートしていただきました。皆様の力添えがあったからこそ、英国代表チームは東京2020で素晴らしい成功を収めることができました。

パートナーの皆様が、私たちのために膨大な時間を費やし、尽力いただいたことに感謝します。東京2020の思い出を心に刻み、友好関係が未永く続くことを願っています。

ありがとうございます。 英国オリンピック委員会CEO アンディ・アンソン



英国オリンピック委員会 CEO アンディ・アンソン氏

The Tokyo 2020 Olympic Games will be remembered as a Games like no other – one of sheer human endeavour and extraordinary sporting prowess. They were always going to be a highly complex Olympic Games to deliver and that was before the Covid-19 pandemic, which complicated further the task of delivering on all of Team GB's ambitious targets. At the heart of our operation was a comprehensive and world-leading performance environment that we delivered with the integral support, enthusiasm and commitment of our partners at Keio University and the cities of Kawasaki and Yokohama. The support, expertise, diligence and positivity that their teams brought to every task and challenge we faced was vital to the ultimate success of Team GB at Tokyo 2020 – we couldn't have done it without them.

It is not just the time and effort from our partners in Tokyo that was so important but we will be forever grateful for the friendships that have been formed that will last well into the future. We hope that it is a future inspired by the memories of Tokyo 2020.

Arigato gozaimasu,

Andy Anson CEO, British Olympic Association

英国パラリンピック委員会最高経営責任者(CEO) マイク・シャロック氏

英国パラリンピック委員会は、横浜市・川崎市・慶應義塾大学との素晴らしいパートナーシップを通じて、英国代表チームの事前キャンプを実施させていただいたことを非常に誇りに感じております。今回の事前キャンプは、大会に向けた重要な要素であり、チームの成功にも不可欠なものでした。パートナーの皆様は、コロナ禍の困難で複雑な状況の中、世界トップレベルの施設と最高の環境を英国代表選手およびスタッフに提供してくださいました。

更に、提供いただいた施設・環境では、『スポーツを通じ、障害を持つ人々にとってより良い世界をインスパイアする』という我々の理念が反映されていました。施設のアクセシビリティの改修を通じて、また、市民の皆様とのパンデミック前の対面での交流や現在のオンラインでの交流イベントを通じて、お互いに学びや変化のきっかけを得ることができました。皆様方の懸命なご尽力と温かい心遣いに深く感謝申し上げます。また、このパートナーシップが今後も未永く続くことを期待しております。

ありがとうございます。 英国パラリンピック委員会CEO マイク・シャロック



英国パラリンピック委員会 CEO マイク・シャロック氏

The British Paralympic Association is incredibly proud to have worked with Keio University and the cities of Yokohama City and Kawasaki City to deliver our pre-Games Preparation Camp. This camp was an essential part of our Games time operations and vital to the success of our team at the Games. Our partners embraced the complexity that the pandemic posed and delivered world class facilities and the best possible environment for our athletes and staff to prepare in.

More than that though, they embraced our vision to use sport to inspire a better world for disabled people. Through accessibility modifications to facilities and engagement events with local citizens both in person pre pandemic and now virtually we have inspired change and learnt from each other. We are very grateful for the warmth and enthusiasm of everyone we worked with and look forward to continuing our work together in the future.

Arigato gozaimasu,

Mike Sharrock CEO, British Paralympic Association

**東京2020大会
英国代表チーム事前キャンプ応援サイト
GO GB 2020
アーカイブ
2018年8月～2022年2月**

発行日：2022年2月

発行者：横浜市
川崎市
慶應義塾大学